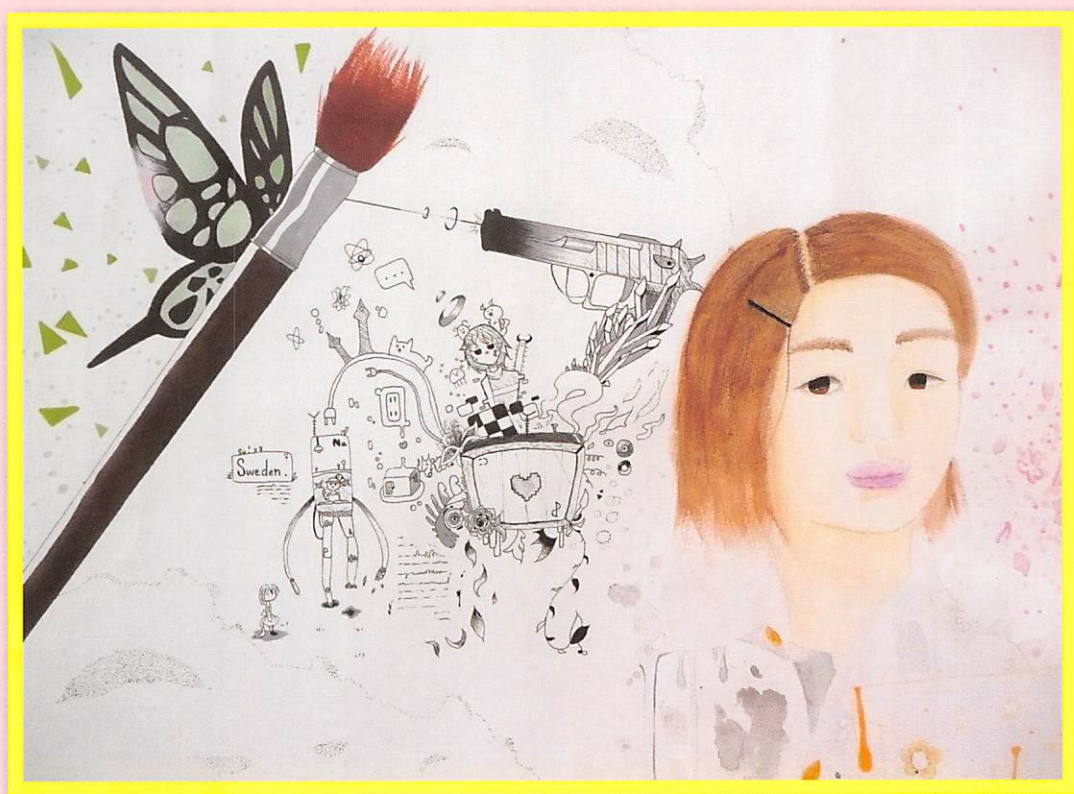




造形 秋田

NO.54 (平成29年度)

2018.3



秋田県教育研究会造形部会
秋田県造形教育研究会



秋田の造形教育を発信する絶好の年！

秋田県造形教育研究会

会長 永井孝久

平成29年度「造形秋田」の発刊にあたり、編集及び執筆に携われた皆様のご協力に心から感謝申し上げます。今年度の秋田県造形教育研究会の活動及び各地区造形研究会における活動に際しましては、皆様の児童生徒・学校・地域に寄せる熱気みなぎる情熱に心から敬意を表します。

さて、いよいよ平成30年を迎えました。7月30日・31日に開催する「第71回全国造形教育研究大会秋田大会」がいよいよ差し迫ってきました。これまで、数回にわたり全県規模での研修会を行い、会員相互において大会実施に関わる共通理解をするとともにその都度情報の伝達もしてきました。年度末の異動を終えた4月からは、各組織ごとに最終調整をしながら2日間の大会をしっかりと運営できるように準備を進めていくことになります。「オール秋田で行う全国大会」と旗を高く掲げて進めてきています。会員の皆様のすばらしい英知と積極的な実行力で、すばらしい大会にしましょう。そして、秋田県の造形教育が私たちにはスタンダードであっても全国の先生方へは新鮮で且つ衝撃的であることを大々的に発信しましょう。

また、新しい学習指導要領が改訂され、小学校と中学校では全面実施の時期はずれですが平成30年度からどちらも先行実施となります。今年度開催された造形教育の東北大会や全国大会では教科調査官がこれからの造形教育の在り方について大変熱心に話されていました。特に、「主体的・対話的で深い学び」において、造形教育では『知識の理解の質を高めるために「何のために学ぶのか」という学習意義を共有し、「何ができるようになったか」というゴールまでをしっかりと育てなければならぬ。』ということがこれからの造形教育の根幹をなしていくものと思われまます。

今の秋田の教育は新学習指導要領が狙っているある程度において、すでに十分な実践が為されているのではないかと私は考えるのですが、全面実施に向けた意識的な取り組みも合わせて紹介していきたいものです。

平成29年度第58回秋田県児童生徒美術展は、今回、県立美術館が改修工事による閉館ということで、久しぶりに秋田市文化会館での開催となりました。今年も、秋田市会員の多大なるご協力があった開催でありましたが、今回は一部ではありましたが各郡市の方にも事務的な作業をしていただきました。このように「オール秋田」という思いを高め、造形教育の充実を期してまいります。

これまで、秋田の子どもたちのために多くの先生方が、ただひたすらにそして誇りを持って教育に携わってきました。今や秋田の教育実践は日本の教育のスタンダードになろうとしています。私たちは、そんな秋田の教育に誇りと自信を持って、夏にはこの秋田から造形教育のすばらしさを発信していきましょう。

造形 秋 田

No.54

目 次

巻頭言

各郡市造形教育研究会の活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第58回 秋田県児童生徒美術展・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第58回 秋田県児童生徒美術展 話題作一覧・・・・・・・・ 12

研究の記録

第47回秋田県造形教育セミナー
・開催記録 ・講話会記録・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

東北大会に参加して 木内 衛 先生・・・・・・・・ 23

全国大会に参加して 小学校 千田 圭子先生・・・・・・・・ 24

中学校 沼田 桃子先生・・・・・・・・ 25

平成29年度 秋田県造形教育研究会役員一覧

表紙の絵 my favorite
桜中学校3年 伊藤 愛 紘
裏表紙の立体 新たな一歩を踏み出す靴
西仙北中学校3年 共同制作

各郡市造形教育研究会の活動報告

組織 会長 木村 伸 (花輪第二中学校)
 副会長 関 清 志 (花輪第一中学校)
 事務局 田 中 繁 子 (花輪小学校)
 研究部 関 清 志 (花輪第一中学校)
 会計 田 中 繁 子 (花輪小学校)

主な事業

平成29年度総会
 (花輪第一中学校/4月21日)

県児童生徒美術展鹿角地区審査会
 (文化の杜交流館コモッセ/12月5日)

鹿角小・中・高合同美術展
 (コモッセ/1月18日～1月23日)
 作品を見合う会 (同 /1月23日)

研究会(事業)の記録

○ 県児童生徒美術展鹿角地区審査会 (12/5)

今年度は、小・中合わせて195点の作品が出品され、そのうち66点の作品が優良作品に選ばれた。また、県審査では、66点の作品のうち、小学校5点、中学校3点の合計8点が推奨・話題作(推奨7点・話題作1点)に選出された。どの作品も児童生徒の思いのあふれた伸び伸びとした作品であった。立体作品が少なかったのが残念であった。

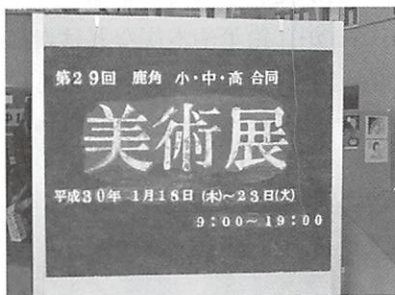
【鹿角地区審査会の様子】▶



○ 鹿角小・中・高合同美術展 (1/18～1/23) , 作品を見合う会 (1/23)

今年度で29回目となり、鹿角市文化の杜交流館「コモッセ」に会場が移動してから3回目の小・中・高合同美術展を開催した。小・中学生の作品195点のほかに、高校生の作品11点も展示され、多くのお客さんに見ていただくことができた。

▼合同美術展の新聞記事 (1/19付:北鹿新聞より)



▲【高校生が制作した美術展看板】



◀【鹿角小・中・高合同美術展展示の様子】

組織 会長 永井孝久(山瀬小学校)
 副会長 嘉藤貴子(鷹巣南中学校)
 事務局 佐々木亜希子(大館東中学校)
 研究部 工藤明美(鷹巣中学校)
 会計 山崎真紀子(比内中学校)

藤島聖人(綴子小学校)
 コリガン麻衣(大館第一中学校)
 三澤正敏(山瀬小学校)
 佐々木由美(北陽中学校)

主な事業

大北造形研究会総会(4/13)
 会場：田代公民館

造形セミナーに参加(7/26)
 ※大北造形研実技研修会を兼ねる
 会場：秋田県総合教育センター

秋田県児童生徒美術展地区審査会(11/24)
 素描集「北の造形」第50集審査会
 及び研修会
 会場：田代公民館

第40回 絵を見て語る会(1/19)
 素描集「北の造形」第50集発刊・配布
 大北造形研究会最終理事会
 会場：田代公民館

研究会の記録

○秋田県児童生徒美術展地区審査会及び素描集「北の造形」審査会について(11/24 田代公民館)

例年通り秋田県児童生徒美術展の地区審査会を行った。会員数の減少に伴い、地区審査会の審査員の数も年々減りつつある。入賞の基準は、「自分の気持ちを素直に表現し、その子ならではの工夫が見られること」である。作品に文章での説明がある場合、子どもの思いは読み取りやすいといえるが、大半の作品には説明はなく、色や形、技法や材料の組み合わせなどから我々が子どもの思いを想像しなくてははいけない。いかにその思いを感じ取れるか審査員としての力量が問われるため、今後も研鑽を積む必要を感じた。

素描集「北の造形」コンクールは今年で50回目を迎えた。レベルの高い作品が出そうのため、全体の3割にあたる入賞作品を選ぶことは困難を極める。今年は素描のあり方について議論が交わされた。素描とは、「単一色の線もしくは点で、物の形象をあらわした絵」(広辞苑)となっているが、鉛筆や木炭などは素描集の印刷に向かないため使用できないという独自の制約がある。小学校の作品は純粹に形にこだわったものであるが、中学校の作品になると、形だけでなく立体感を表すための陰影が描き込まれた作品が主流になってくる。いわゆる、アカデミックな「デッサン」に近い表現を、黒ボールペンなどの描き直しがきかない描画材で行うという高度な技術で描かれた作品が選ばれている。審査基準は「自分とのつながりを大切にし、思いを素直に表現している、意欲的に取り組み、楽しさが感じられる、のびのびとした線で、勢いが感じられる」であり、審査員は常にこれを意識しながら、単に技術的に優れたものに入賞作品が偏らないようにしなくてはならないと再確認した。



[小学校高学年の部での審査風景]

| | | | |
|-----|------|----------------|-----------------|
| 組織 | 会長 | 佐藤 克 (東雲中学校) | |
| | 副会長 | 明石 まき子 (浅内小学校) | 長浜 笑子 (能代第二中学校) |
| | 会計監査 | 芹田 亨 (常盤中学校) | 越前 芳広 (金岡小学校) |
| | 事務局 | 渡部 悦子 (東雲中学校) | |
| | 理事 | 越後谷 知子 (崇徳小学校) | 畠山 和子 (向能代小学校) |
| | | 伊藤 康子 (浜口小学校) | 伊藤 葉子 (第四小学校) |
| | | 田中 絵里奈 (山本中学校) | 岩谷 修一 (八竜中学校) |
| 研修班 | | 田森 舞 (能代第一中学校) | 芹田 亨 (常盤中学校) |
| | | 越前 芳広 (金岡小学校) | 小森 哉子 (常盤小学校) |
| | | 大沼 護 (能代南中学校) | |

主な事業

| |
|--|
| ○夏季研修会 第71回全国造形教育研究大会秋田大会の授業者のグループに分かれて、実技研修を行い、授業の流れや素材などについて話し合った。 7/27 |
| ○授業研究会 八峰町立峰浜小学校 「カードで味わう形・色」(小4) 11/29 |

| |
|---|
| ○秋田県児童生徒美術展審査会 12/11 |
| ○能代地区高校美術作品展への出品協力 「小・中・高連携による造形活動」2/17~2/18 |
| ○企業との連携 全国児童生徒木工工作コンクールへの出品 |

研究会の記録

○夏季研修会

第71回全国造形教育研究大会秋田大会に向けて、授業者2人のグループに分かれて実技研修を行った。「トントンつないで」のグループでは、杉やアイスの棒など様々な木材を組み合わせ、釘や紙バンドで繋いで立体作品をつくった。また、「でこぼこ広場に絵の具がはしる」のグループでは、ボードを切って組み合わせ、その上に液体粘土を塗って、でこぼこの画面づくりをした。実際に素材に触れ、今後の課題を見つけることができ、来年度に向けた有意義な研修となった。

○授業研究会

峰浜小・赤塚麻由教諭に授業提供いただき、題材名「カードで味わう形・色」(4年生)の授業研究会を実施した。個々の児童のイメージをもとに制作された「模様カード」の鑑賞の授業であった。グループ内で模様カードを見合い、その後、学級全体で付箋紙に書いた言葉から模様カードを選ぶ活動を行った。形や色に対するイメージと言葉とを結び付ける活動を通し、互いの感じ方の違いやおもしろさに気づいたり、自分のイメージを捉え直したりしていた。授業研究WSでは、全ての児童が意欲的に鑑賞活動に取り組む工夫、共通事項を意識させる手立てがなされていたことが話題になった。

○能代地区高校美術作品展への出品協力

各校で児童生徒にワークショップを展開し、高校生が制作したシートに描いた平面作品から児童生徒各自がイメージを膨らませて、作品の中で泳ぐ「海の生物」を制作した。また、2月に行われる能代地区高校美術作品展では、高校生が小・中・高の作品群を展示構成して、「小・中・高連携による造形活動」のアンサー作品が展示される予定である。

○企業との連携(全国児童生徒木工工作コンクールへの出品)

昨年に引き続き、地元の本材会社に材料を提供していただいた。各校で児童生徒の想いが込められた作品が制作され、県審査を通った作品は全国大会に推薦された。



【夏期研修会 制作風景】



【授業研究会 峰浜小学校の授業風景】

組織 会長 三浦 真澄 (美里小学校)
副会長 中川 努 (男鹿東中学校)
事務局 上田 環 (船川第一小学校)

主な事業

造形部総会 (4/12)

男鹿市児童生徒美術展審査会 (11/28)

男鹿市児童生徒美術展 (11/29~12/8)

研究会の記録

(1) 研究主題 よさや美しさを感じ取り想像力を働かせ表現する子どもの育成

(2) 活動の概要

① 活動の概要

今回の作品展は平面・立体が審査の対象で、作品にも幅広い造形要素が見られた。出品した作品をもとに鑑賞指導や審査を交えながら作品を観るときのポイントを研修した。

翌日から男鹿市児童美術作品展をハートピアギャラリーにおいて開催した。ふるさとを題材にした作品も多く見られ、参観者の目を誘った。我が子の作品を一目見ようという参観者が多数訪れた。多くの作品を前にして、感慨を語る様子が見られた。

また、教科研修会では普段の授業から実践発表を行った。発表を通して、部員の取り組みや工夫して行っていることを学べて有意義な時間となった。洗濯ばさみを使った造形遊びでは、実際に部員も作品づくりを楽しんだ。



| | | | |
|-------|------------------|----------------|--|
| 組織 会長 | 合田 マキ子 (天王小学校) | | |
| 副会長 | 佐藤 恵 (八郎潟中学校) | | |
| 運営委員 | 菅原 恵 (五城目小学校) | 築瀬 智美 (井川小学校) | |
| | 小林 博子 (五城目第一中学校) | 近江 和佳子 (天王中学校) | |
| 事務局 | 都留 賀津人 (天王南中学校) | | |

主な事業

| | | | |
|------------|---------|-------------|---------|
| ・総会 | 4/12(水) | ・運営委員会 | 5/25(木) |
| ・夏休み造形教室 | 8/4(木) | ・教科等研究会 | 9/6(水) |
| ・子どもの絵を語る会 | 12/8(金) | ・秋田県児童生徒美術展 | 1/5(金) |

研究会の記録

(1) 研究主題 よろこび・わくわく 新たな発見 ～キラリ感じてつなげる、広げる～

(2) 活動の概要

① 夏休み造形教室

- ◆会場 五城目町 野鳥の森
- ◆内容 木の実、木の枝などを生かした立体作品の制作
- ◆対象 潟上・南秋地区の小学生
- ◆所感 学校ではなかなか得られない子どもの興味を引く豊富な自然素材と充実した工具の他、動眼やコルクシート等イメージ通りの制作を助ける素材も用意した。子どもたちは、自然豊かな環境のもと、材料から豊かに発想し、必要に応じて造形部員のアドバイスを受けながら、自分の思いを生かした作品作りを楽しんでいた。



② 教科等研究会

- ◆会場 潟上市立天王中学校 美術室
- ◆内容 実技演習「エコクラフト」
- ◆講師 エコクラフトを楽しむ会代表 鈴木 洋子 氏
- ◆所感 地域でサークル活動を主催している講師の指導のもと、クラフトテープを使用したバッグづくりの研修を行った。授業に活用できそうな材料体験となった。指導される立場で演習を行ったことにより、自分の思いを生かしてつくる喜びを感じたり、改めて支援の在り方などについて考えたりする機会となった。

③ 子どもの絵を語る会 (秋田県児童生徒美術展地区審査会)

- ◆会場 潟上市 昭和公民館
- ◆内容 県児童生徒美術展の作品審査、児童生徒による造形作品の評価の在り方についての研修
- ◆所感 作品に込められた児童生徒の思いや、作品作りの様子などについて話し合う中で意見交換しながら審査を行った。絵や立体作品の捉え方、授業づくりや指導技術についての情報交換など、審査の枠を超えた話合いも自然になされた。

| | | | |
|---------|--------------------|------------------|--|
| 組 織 会 長 | 鎌 田 悟 (太平中学校) | | |
| 副 会 長 | 榎 実和子 (御所野小学校) | 築 地 洋 (秋田南高校中等部) | |
| 事 務 局 | 菊 地 有希子 (大住小学校) | 渡 部 英 明 (勝平小学校) | |
| | 鎌 田 政 美 (土崎中学校) | 大 野 由加里 (旭南小学校) | |
| 幹 事 | 中 尾 裕 子 (御所野学院中学校) | 齋 藤 未 樹 (御野場中学校) | |
| 会 計 | 伊 藤 知佐子 (将軍野中学校) | | |

主な事業

美術鑑賞研修会 「明治有田 超絶の美
万国博覧会の時代」展
(秋田市千秋美術館/5月17日)

大森山動物園
第39回 親と子のふれあい写生大会
(大森山動物園と共催/7月22・23日)

秋田県児童生徒美術展 秋田市審査
(土崎中学校/12月2日)

クロッキー巡回展 : 市内各小学校
(審査: 保戸野小学校/12月26日)

研究会の記録

- 全市一斉授業研究会 (中学校) 10/18 (水) 雄和中学校 菊地 篤 先生

題材名 「想いを届ける紙芝居 ～コミュニケーションをデザインしよう～」 (3年生)

中学生が小学生に手作りの絵本を作って読み聞かせしてあげようという発想が素晴らしかった。卒業を前にした中学3年生の生徒たちが考えた紙芝居のストーリーには、後輩である小学生に伝えたいメッセージが込められていた。生徒たちは、相手の学年や年齢を想定しながら、思いが相手に伝わるような形や色を考えながら絵を描き、絵を描きながらストーリーを練り直すなど、試行錯誤しながら活動していた。導入で、喜怒哀楽の表情を簡単な絵で表したり、授業の途中ではプロの絵本作家の技に目を向けさせたりするなど、「相手に伝えるためには何が大切か」を意識させるための教師の工夫が凝らされていた。

- 全市一斉授業研究会 (小学校) 11/8 (水) 四ツ小屋小学校 小野 哲 先生

題材名 「まあるつつを チョキチョコキ ガッチャン」 (2年生)

彩色した紙の筒を自由にはさみで切り、ベニヤ板にホチキスで接合しながらその形や色から発想して絵や立体に表す題材であった。主材料はトイレットペーパーで、扱いが容易な割に強度があり多様な表現が可能であるなどの特徴をうまく生かした活動であった。子どもたちは、切り開いた時のことを考えて筒の両面に着色したり、はさみで細く切ってきたばねのような形から自由に発想を広げたりして意欲的に取り組んでいた。さらに思いつくままホチキスでベニヤ板の上に紙を貼り付けながら、表現を膨らませる姿が見られた。また、困った時はお互いに助け合って活動したり、友達とのかかわりの中で、友達の表現に刺激されて新たな表現が引き出される場面もあった。



- 水曜研修会 2/7 (水) 秋田市教育研究所

全国大会に向けて指導案の発表 意見交換

全国大会の授業者から授業の内容や大まかな構想を聞いた後、グループごとに分かれて話し合いをした。「授業をよりよいものにするためには」という思いで、忌憚のない意見を活発に出し合うことができた。素材や道具、技法などの具体的なアイデアも出されるなど、充実した話し合いになった。

| | | |
|-----|---------|---------------------|
| 組 織 | 会 長 | 菊 地 新 吾 (象 潟 小 学 校) |
| | 副 会 長 | 田 村 稔 (上 浜 小 学 校) |
| | | 三 浦 直 樹 (平 沢 小 学 校) |
| | 事 務 局 | 木 内 衛 (本 荘 北 中 学 校) |
| | 研 究 部 長 | 関 口 琢 也 (象 潟 小 学 校) |
| | 会 計 | 須 田 秀 二 (由 利 中 学 校) |

主な事業

| | | | |
|-------------|--------|--------|---|
| 平成29年度造形部総会 | 4/13 | 造形部研修会 | 12/8 |
| 本荘由利児童生徒美術展 | 12/2~4 | その他 | 本荘由利小・中・高等学校の図画工作・美術の研究授業への参加 (各校研究授業等) |

研究会の記録

1. はじめに

各校の教科研究や地区の研究会等で造形部員それぞれが研鑽を積み、指導法の研究や児童生徒の作品がどうあるべきかを考察すること、また、教科別研究集会や研修・研究部会・児童生徒美術展・県児童生徒美術展平面作品審査への参加など、様々な形で積極的に研修に参加することを、当会の具体的な目標とした。

特に、児童生徒美術展は各校の造形活動の取り組みを紹介し合う機会であり、より幅の広い意味での情報交換の場となっている。また、奨励作品の審査・選出を通して作品の見方や造形活動の在り方について協議する活動の意義は大きい。

2. 各事業の成果

(1) 本荘由利児童生徒美術展 (12月2日～4日)

由利本荘市文化交流館「カダール」で開催した。テーマである「描くこと・つくることが大好き」を反映した個性豊かな作品が多く見られた。昨年同様、立体作品の充実には目を見張るものがあった。

出品作品の中から造形部がめざす作品を「奨励賞」として選出した。各小中学校の教職員及び、造形部員の熱心な取り組みと各校の協力で、運営面・作品の内容共により充実した展覧会となった。

カダールを会場として実施するのは6回目ということで、3日間で1805名の来場があり、多くの方々に見ていただけた。

来年度は開催期間や広報活動、今年度実施した会場構成や作品管理の常駐を軌道にのせ、さらに地域の方々へ親しんでいただける展覧会にしていきたい。

(2) 造形部研修会(12月8日)

由利本荘市市民交流学習センター多目的ホールを会場に、県児童生徒美術展に出品する本荘由利の作品を選出する公開審査会として行った。26年度から立体作品の審査も行っているが、今年度から各校の出品数を事前に報告してもらうことで審査時間を短縮することができた。また、出品作品の保管も課題であったが、各校の協力により当日の審査後に再度作品を取りに来ていただくことができ、部員の負担を減らすことができた。

造形部員にとっては、児童・生徒の作品の傾向・良さ・課題について話し合う有意義な研修の場となり、今後の授業に役立つ多くの情報を得ることができたはずである。

(3) 本荘由利小・中・高等学校の図工・美術の研究授業への参加

造形部研究部長より本荘由利の小・中学校における年間の図工・美術の研究授業(要請訪問・教科等指定訪問)の一覧表が造形部員に配布され、一覧表を見て造形部員が希望する授業を参観するようにしている。高等学校会場の参加機会も含め、分科会にも積極的に参加するように勧めている。

組織 会長 小林 高太郎 (神代中学校)
副会長 門脇 伸子 (松木内小学校) 佐川 由紀子 (西明寺小学校)
事務局 田中 真二郎 (西仙北中学校)
研究部 菅原 久実 (美郷中学校)
監事 菅原 靖 (神岡小学校) 三浦 典子 (大曲小学校)
幹事 菊地 伸 (大曲中学校)

主な事業

秋田県造形教育研究会主催
夏季研修会への参加 / 7月26日

全国造形教育研究大会長野大会 研修視察
(長野県軽井沢・佐久平 / 11月17日18日)

大曲仙北児童生徒美術展 審査及び研修会
(大仙市大曲交流センター / 12月4日・5日)

全国大会に向けた指導案検討会
(小・中学校部会 随時開催)

研究会の記録

日々の研究として

今年度も「思い豊かで楽しくてたまらない造形教育を求めて」という研究テーマの下、会員共通の視点をもって授業に臨み、授業改善につなげていった。

授業改善に向けた研究の重点を「自ら表したいこと・考えたいことを見つけさせる指導の手立て」として、授業での導入時の引きつけ方、材料提示の工夫、制作途中での参考作品の見せ方など、改善ポイントを挙げ、各会員が授業において意識して実践すると共に意見交換の場を設けて研修を深めてきた。

また、次期学習指導要領に対応した3つの柱を重点に授業改善の方策を研究している。また、来年度の全国大会に向け、授業研究班は随時指導案検討会を行い、その成果を全会員に共有したいと考えている。

関連事業

平成29年度 大曲仙北児童生徒美術展

期日：12月4日(土)～5日(日) 場所：大仙市大曲交流センター講堂

児童生徒数の減少に伴い、出品点数は減少傾向だが、出品作品は多種多様であり、表現レベルも向上している。児童生徒が各々の作品に対し、自己の心情や考え、イメージを基に表現したいことを意識して制作された作品が多数あったが、これは指導者が児童生徒の内面に重点を置いた授業を展開するとともに、制作意欲を引き出し、思いを作品で表現するための働きかけが工夫された成果と思われる。大曲仙北造形教育研究



大会での授業演示の様子を紹介するビデオ上映等も行い、作品の上手い下手という視点ではなく、図工・美術の楽しさや大切さなどを子どもたちの授業風景や作品から感じ取ってもらう取組を行っている。

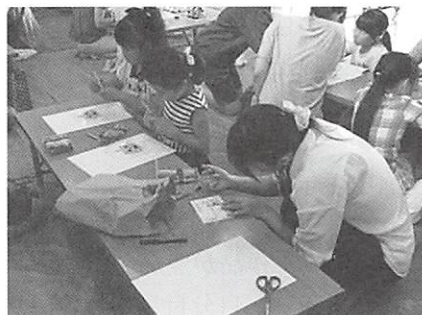
| | | | |
|----|------|---------|--------------|
| 組織 | 会長 | 佐藤 稔 | 教諭 (横手北中学校) |
| | 副会長 | 草 弼 昇 | 教諭 (増田中学校) |
| | | 榊 原 若 樹 | 教諭 (横手明峰中学校) |
| | 研究部長 | 柴 田 緩 子 | 教諭 (平鹿中学校) |
| | 事務局 | 高 橋 輝 樹 | 教諭 (横手北中学校) |

主な事業

- ・つくってあそぼう 【横手市役所 南庁舎】 (10月28日)
- ・第43回横手市児童生徒美術展 兼 第58回秋田県児童生徒美術展・横手地区審査会
【横手駅前交流センター Y²ぷらざ1F】 (12月22日～26日)
- ・全国造形研究大会に向けた指導案検討会及び南ブロック県大会実践記録について
【横手北中学校】 (7月21日, 9月19日, 11月13日)

研究会等の記録

- ・横手市子ども会育成連合会が主催の「つくってあそぼう」は横手市役所南庁舎で10月28日に開催されました。横手市造形教育研究会では『図工あそび』ブースを提供しました。内容は、プラ版シートを使ってキーホルダー作りのコーナーで子供達と造形を楽しみました。親子で工夫して楽しみながらつくる姿が印象的でした。



- ・第43回横手市児童生徒美術展は12月22日～26日の5日間、横手駅前Y²ぷらざで実施されました。小中学校25校の力作約600点が会場を盛り上げました。他校との情報交換や、題材研究の場としても、有意義な空間となりました。会場をY²ぷらざとしてから5年目になりますが、横手駅前ということもあり、多くの方々に作品を見ていただきました。26日には第58回秋田県児童生徒美術展の審査会が行われ、61点の優良作品が選出されました。今年は会場の都合もあり、会期が一ヶ月ほど遅く冬季休業と重なり、市内の小中学校には大変ご難儀をおかけしました。



組織 会長 加藤 久夫 (湯沢北中学校)
 副会長 阿部 悦子 (山田小学校)
 事務局 三浦 秀巳 (羽後明成小学校)
 研究部 仙道 真理子 (湯沢南中学校)
 幹事 池田 亜紀 (湯沢西小学校)
 会計 鈴木 陽 (稲庭小学校)

井上 晴子 (西馬音内小学校)
 佐藤 秀実 (稲川中学校)

主な事業

郡市教育研究会総会
 研究テーマ、活動計画、今年度役員の確認
 (湯沢北中学校／4月12日)

郡市一斉授業研究会
 (湯沢文化会館・湯沢北中／9月13日)

秋田県児童生徒美術展地方展開催
 (広域交流センター／11月10日～12日)

会誌「このゆびとまれV o l . 17」
 製本・発送
 (湯沢西小／1月26日)

研究会の記録

◎秋田県児童生徒美術展湯沢雄勝地方展より

総出品数297点 (小学校202点・中学校95点)のうち、92点を本都市の優良作品として県に推薦した。以下に今年度の審査講評からの特記事項を抜粋する。

(低学年) 自分の思いを表すために、水彩絵の具をコントロールして描いている作品が多く見られた。

(中学年) 題材のおもしろさから子どもたちの発想の広がりを感じた。題材や主題の与え方によって、子どもたちの作品が豊かになる。

(高学年) 自分自身や身の回りの自然など、対象となる物をじっくり観察して、自分の絵として表現しようとする気持ちを感じられた。

(中学校) 感情などをダイナミックに表現した作品が見られた。絵画のみならず立体作品も多く、題材の広がりが見られる。



◎郡市一斉授業研究会

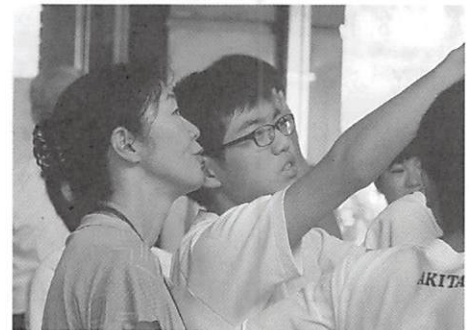
授業者：高橋 香理 先生 (湯沢北中学校・2年)

題材名：紺野五郎との対話 ～地域の施設で鑑賞しよう～

指導者：熊谷 留美子 指導主事 (仙北出張所)

報告：池田 亜紀 先生 (湯沢西小学校)

～第47回秋田県造形教育セミナーからの報告



本時の学習のポイントは、秋田県が輩出した画家の作品を地元の文化施設で直接鑑賞するという点である。主題を探るには少し難解な作品であったが、生徒たちは自分の思い伝え、意見交換し合うことで作者の思いを読み深めていった。発表する生徒や聞く側の生徒の表情もよく、笑顔で受け答えする場面も見られた。相手を共感的に受け入れようとする姿勢は、今後の造形活動にも大きく活かされることを感じた。

第58回 秋田県児童生徒美術展

期 間：平成30年1月6日（土）～9日（火）

会 場：秋田市文化会館 地下ホール

4日間とも開館時間帯は、10：00～17：00

- 主 催 秋田県教育研究会造形部会
秋田県造形教育研究会
- 後 援 秋田県教育委員会 秋田市教育委員会
秋田魁新報社 NHK秋田放送局
A B S秋田放送 A K T秋田テレビ
A A B秋田朝日放送

| | | |
|------|-------------|-------------|
| 応募数 | 平面の部 | |
| | 出品総数 3,840点 | 優良作品 1,185点 |
| | 推奨作品 113点 | 話題作 38点 |
| 入場者数 | 2,392人 | |

話題作一覽

（魁掲載）作品 ～平面の部・立体の部～

| 学年 | 題名 | 学校名 | 氏名 | 地区 |
|----|------------------------------|-----------------|-----------|---------|
| 幼保 | みんなでがんばったマーチング | ひかり保育園 | いとう たいが | 本 莊 由 利 |
| | おいしそうだね！ | 大館八幡こども園 | いとう ひたち | 大 館 北 秋 |
| 小1 | お日さまあびるくじらぐも～いってみたいなゆうえんち | 上浜小学校 | いけ田 るい | 本 莊 由 利 |
| | 空にむかってウォーターライダー | 日新小学校 | いしかわ ゆうま | 秋 田 |
| | あさがおのはなび | 川連小学校 | ひわたし とうご | 湯 沢 雄 勝 |
| | やみのたこさん | 綴子小学校 | まえだ ゆたか | 大 館 北 秋 |
| 小2 | かがやく海でかくれんぼ | 八森小学校 | 成 田 ひなた | 能 代 山 本 |
| | どうぶつ園でキリンとおさんぽ | 雄和小学校 | ほりい かいと | 秋 田 |
| | 虫のパーティー | 石沢小学校 | 猪 股 涼 斗 | 本 莊 由 利 |
| | しろふくろう | 大館南小学校 | よね森 あみ | 大 館 北 秋 |
| 小3 | 森の中のフクロウと虫たち | 崇徳小学校 | 長おか 大が | 能 代 山 本 |
| | ぼくとトンボの大ぼうけん | 東館小学校 | 立 石 唯 斗 | 大 館 北 秋 |
| | おしゃれなおばちゃん | 小友小学校 | 伊 藤 快 晟 | 本 莊 由 利 |
| | 夜を走りぬく犬！！ | 四ツ小屋小学校 | 榎 ひかり | 秋 田 |
| 小4 | にじいろの島 | 神岡小学校 | 伊 藤 夢 彩 | 大 曲 仙 北 |
| | 元気もりもりヘチマと葉っぱ | 大館南小学校 | 山 内 叶 愛 | 大 館 北 秋 |
| | 百面相タコ | 新山小学校 | 高 田 唯 一 花 | 本 莊 由 利 |
| | おそろおそろスプーンですくい上げられる びんづめの白玉君 | 湯沢東小学校 | 岡 田 英 治 | 湯 沢 雄 勝 |
| 小5 | ふるさとの安らぎの場 | 鷹巣小学校 | 中 川 心 結 | 大 館 北 秋 |
| | 夜空のほたる | 大曲小学校 | 富 樫 萌 瑠 | 大 曲 仙 北 |
| | カラフルワールドへようこそ | 平沢小学校 | 佐々木 琴 乃 | 本 莊 由 利 |
| | アサ | 秋田大学教育文化学部附属小学校 | 鈴 木 理 乃 | 秋 田 |
| 小6 | 古きよき田代の曲げわっぱ | 山瀬小学校 | 渡 辺 真 衣 | 大 館 北 秋 |
| | 大迫力な児童玄関 | 崇徳小学校 | 落 合 鼓 歌 | 能 代 山 本 |
| | 優しさに包まれて | 五城目小学校 | 石 井 天 | 潟 上 南 秋 |
| | 保育士になった自分 | 平沢小学校 | 伊 藤 涼 花 | 本 莊 由 利 |
| 中1 | 昇降口を見上げて | 東雲中学校 | 落 合 桃 音 | 能 代 山 本 |
| | 冬の景色 | 山田中学校 | 柴 田 誠 史 | 湯 沢 雄 勝 |
| | 夏から冬へ(季節のイメージ) | 泉中学校 | 日 野 希 良 | 秋 田 |
| | 目や手で感じる、心地よい形のデザイン | 矢島中学校 | 佐 藤 誠 翔 | 本 莊 由 利 |
| 中2 | 思い出たくさんバッグ | 男鹿東中学校 | 鈴 木 優 菜 | 男 鹿 |
| | 体育の授業の後に | 能代第一中学校 | 梅 田 愛 佳 | 能 代 山 本 |
| | わたしのワクワク・ウキウキモード | 山内中学校 | 高 階 心 花 | 横 手 平 鹿 |
| | 石段を登れば神社… | 由利中学校 | 大 村 大 夢 | 本 莊 由 利 |
| 中3 | 自分の音 | 十和田中学校 | 遠 藤 奏 海 | 鹿 角 |
| | 新たな一步を踏み出す靴 | 西仙北中学校 | 奏 輪 学 年 | 大 曲 仙 北 |
| | 秋のはじまり | 五城目第一中学校 | 武 田 桃 香 | 潟 上 南 秋 |
| | 失われた沼 | 八峰中学校 | 川 尻 陽 菜 | 能 代 山 本 |

平面の部・立体の部 / 話題になった作品

幼稚園・保育園



みんなでがんばったマーチング
ひかり保育園
いとう たいが



おいしそうだね!
大館八幡こども園
いとう ひたち

小学校作品



お日さまあびるくじらぐも~いってみたいなゆうえんち
上浜小学校
いけ田 るい



空にむかってウォーターライダー
日新小学校
いしかわ ゆうま



あさがおのはなび
川連小学校
ひわたし とうご



やみのたこさん
綴子小学校
まえだ ゆたか



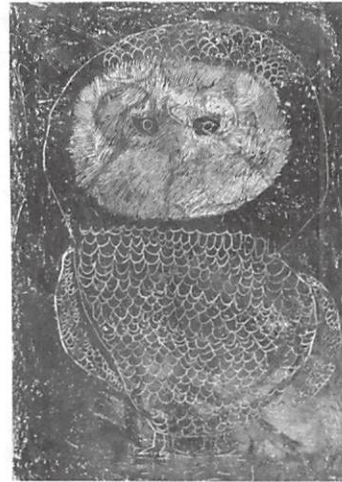
かがやく海でかくれんぼ
八森小学校 成田 ひなた



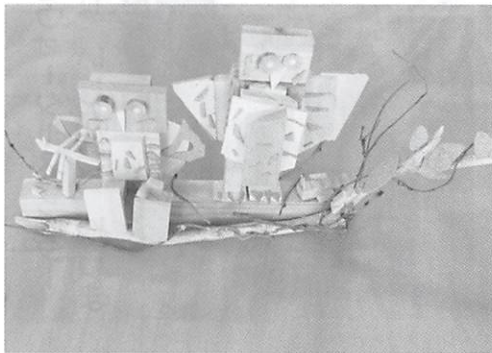
どうぶつ園でキリンとおさんぽ
雄和小学校 ほりい かいと



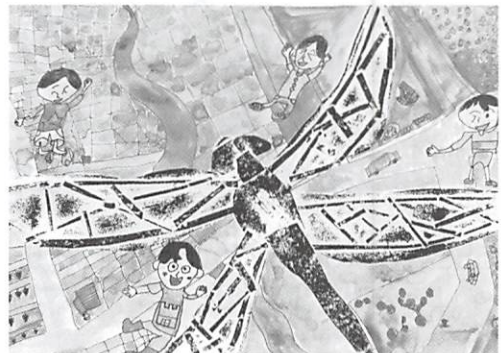
虫のパーティー
石沢小学校 猪股 涼斗



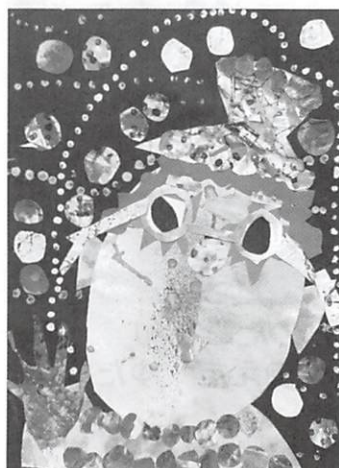
しろぶくろ
大館南小学校 よね森 あみ



森の中のフクロウと虫たち
崇徳小学校 長おか 大が



ぼくとトンボの大ぼうけん
東館小学校 立石 唯斗



おしゃれなおばちゃん
小友小学校 伊藤 快晟



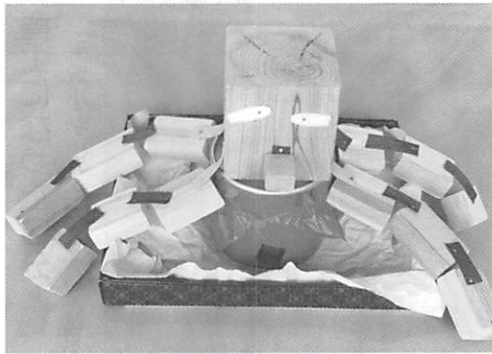
夜を走りぬく犬!!
四ツ小屋小学校 榎 ひかり



にじいろの島
神岡小学校 伊藤 夢彩



元気もりもりヘチマと葉っぱ
大館南小学校 山内 叶愛



百面相タコ
新山小学校 高田 唯一花



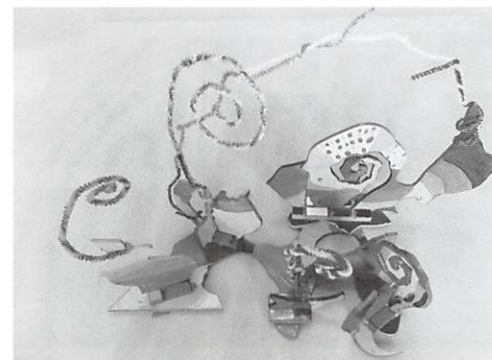
おそろおそろるスプーンですくい
上げられるびんづめの白玉君
湯沢東小学校 岡田 英治



ふるさとの安らぎの場
鷹巣小学校 中川 心結



夜空のほたる
大曲小学校 富樫 萌瑠



カラフルワールドへようこそ
平沢小学校 佐々木 琴乃



アサ
秋田大学教育文化学部附属小学校 鈴木 理乃

大迫力な児童玄関

崇徳小学校 落合鼓歌



保育士になった自分

平沢小学校 伊藤涼花



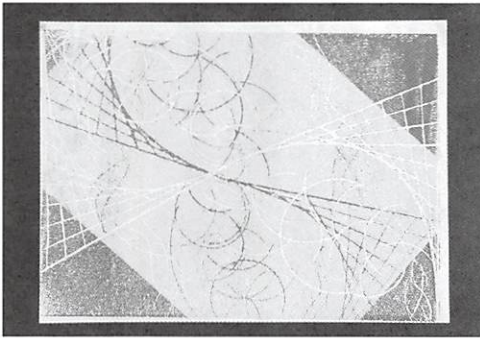
古きよき田代の曲げわっぱ

山瀬小学校 渡辺真衣



優しさに包まれて

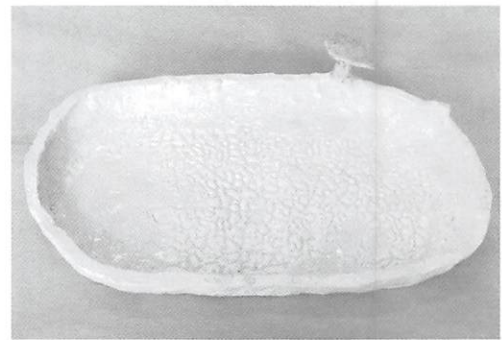
五城目小学校 石井天



中学校作品

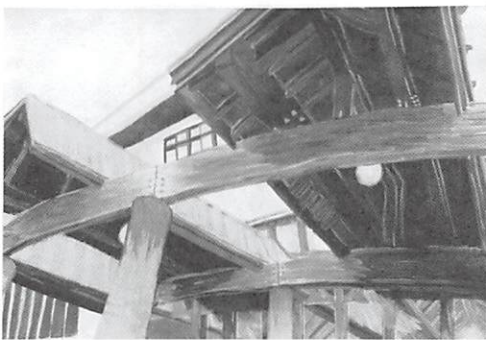
冬の景色

山田中学校 柴田誠史



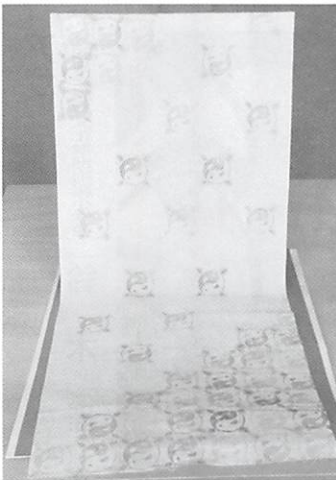
昇降口を見上げて

東雲中学校 落合桃音



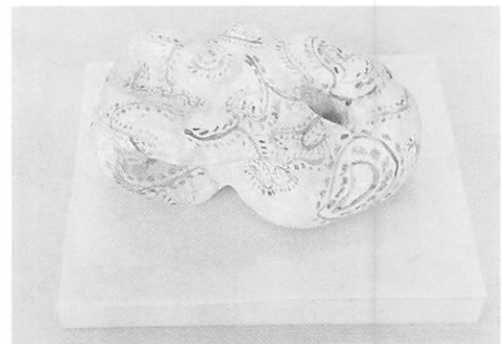
夏から冬へ(季節のイメージ)

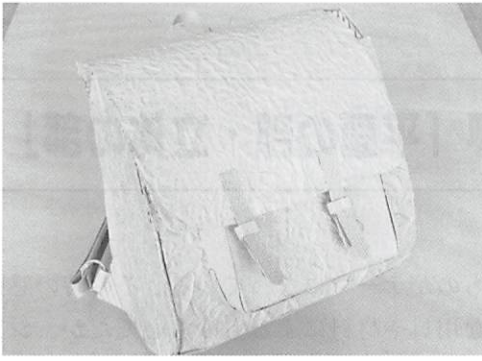
泉中学校 日野希良



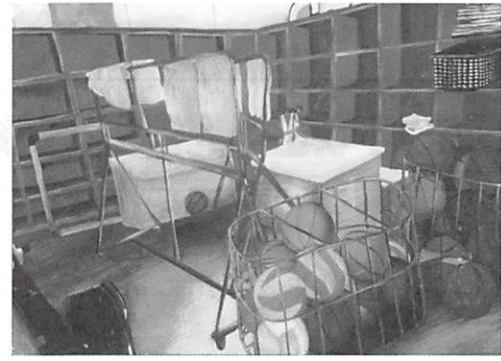
目や手で感じる、心地よい形のデザイン

矢島中学校 佐藤誠翔





思い出たくさんバッグ
男鹿東中学校 鈴木 優 菜



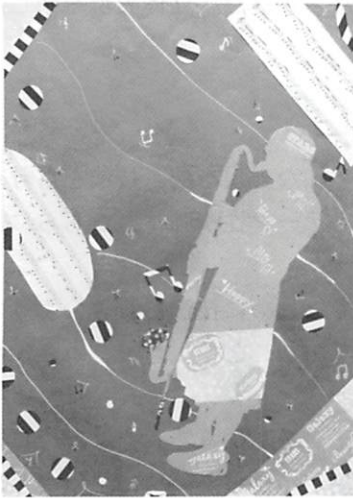
体育の授業の後に
能代第一中学校 梅 田 愛 佳



わたしのワクワク・ウキウキモード
山内中学校 高 階 心 花



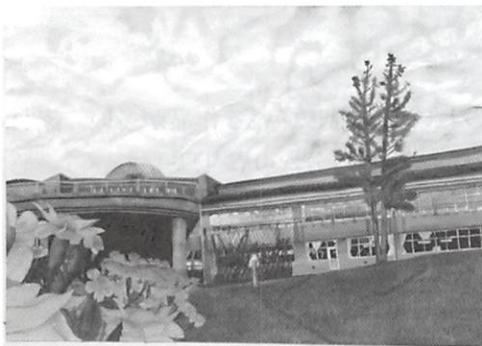
石段を登れば神社…
由利中学校 大 村 大 夢



自分の音
十和田中学校 遠 藤 奏 海



新たな一歩を踏み出す靴
西仙北中学校 奏輪 学年



秋のはじまり
五城目第一中学校 武 田 桃 香



失われた沼
八峰中学校 川 尻 陽 菜

第58回 秋田県児童生徒美術展 総評「平面の部・立体の部」

幼稚園・保育所

子どもたちが、日々生活や行事などで心が動かされているものがテーマになっている。その時の感動や喜びをシンプルな表し方で絵にしているものが多かった。複雑な用具や材料によるものも必要だが、シンプルな材料で、子どもらしくのびのびと楽しんで表すことも大切にしてほしい。

小学校低学年

伝わってくる絵とは、思いと表現がうまく組み合わせることでより輝く。画材が多種になっているが、何をどのように使うとより効果的で、より伝えられるのかを、経験を通じて子どもたち自身で選択して表現してほしい。児童生徒が夢中になって作っている様子が伝わってくる作品作りを期待する。そして主題に向かい、大らかに感性豊かな表現ができることが望ましい。指導者の思いが、指導の中でより子どもの作りたいという思いにマッチすることで、さらに幅広い作品になるだろう。

上浜小1年生いけ田るいさんの「お日さまあびるくじらぐも～いつてみたいなゆうえんち」は、自由な表現で楽しみながらのびのびと作っている様子がうかがえる。学校が楽しく毎日が生き生きとしている様子が、色と形で表現されていて1年生としては物語ができ上がっている。

小学校中学年

形や色にこだわった個性的な作品が多かった。平面作品の作者の豊かな発想や大胆な構図からは表現することを楽しんでいる様子が伝わってくる。また、鮮やかな色彩や統一された色調など作者の感性が作品の魅力となって表れている。

立体作品は、様々な材料から発想を広げ、形や動きが工夫された作品が多かった。立体表現を楽しんでいる授業風景が浮かんでくる。

小学校高学年

高学年になると、平面立体問わず、授業などで今まで身に付けてきた多様な表現方法、技法を自分が表したいことや思いに結びつけている見ごたえのある作品が多かった。中でもテーマ性が強く、こちらに訴えかけてくるものが選ばれた。

5年生は、技能や技法が高まり、質の高い作品が多く見られた。一方ではじめに技法ありきのように、技に頼るのではなく、自分の思いや表したいテーマをしっかりともち、取り組むことで、もっとエネルギーあふれる作品につながるのではと感じた。

6年生は、写実の場合、見たものを描きたいという素直な気持ちに加え、そこに「こう描きたい」という自分の思いを強く込めている様子がうかがえ、見るものに迫ってくる作品が多かった。特に風景などは、見る角度など視点を色々変えてみるなどの工夫がとても大切である。

中学校

表現したいことを明確に主題とし、それを追求しようとしていねいに表現している作品が多い。素材の特質を理解し思い描いたイメージをふくらませて、その特質に合った表現を自分なりに工夫している。感覚・感触を大切にして造形にチャレンジしている作品も見られた。

研究の記録

第47回秋田県造形教育セミナー

兼：全国大会にむけた「第3回全体研修会」

第47回秋田県造形教育セミナーは、平成29年7月26日（水）秋田県総合教育センター 大研修室を会場に約105名の参加者のもと開催されました。第71回全国造形教育研究大会へ向けての見通しをもち、あきた発 新たな美を拓く～わたしを問い、発信する造形活動～のテーマを具現化し、美術教師としての力量を高めるための勉強会のような内容でした。午前中は小学校、中学校から持ち寄られた、それぞれの授業の様子を撮影したビデオを視聴し、それについて小グループによる話し合い活動が行われました。午後からは聖徳大学の奥村高明氏をお招きして、午前中の話し合いで出された意見を織り交ぜながらのご講話をいただきました。ご講話の中で、実践した授業研究の具体的な検証の仕方や研究推進の改善策を協議しました。その後、授業チームによる指導案検討会や、部門別打ち合わせ等を行いました。真夏の秋田で、幼保の先生方も参加され、熱気あふれるセミナーとなりました。研修を終えての感想をピックアップし、ご紹介いたします。

○研修を終えて○

①授業実践ビデオの視聴・協議から学んだこと等から

- ・発問の仕方 振り返りのさせ方 子供の表情から自分の授業を振り返ること
- ・作品や素材との出会いを大切にしなければならないと思った
- ・ダイナミックな活動が展開され楽しそうであった。図工の研究授業を見るのがほとんどないのでとても参考になった。
- ・板書の仕方が参考になった。
- ・ビデオのからも学んだが、題材設定や材料ねらいのもち方など話し合うことでさらに絞られたり広がったりした。
- ・造形遊びのよさがよく伝わる実践だった。参考にして自校でも実践したい。
- ・3方向のビデオはすばらしかった。一人の子供に注目して研修することも大切だと思った。
- ・スランテープという素材はいろいろ発展させられそうに興味深かった。
- ・小・中の授業を一度にみられたのがよかった。
- ・子供のつぶやき、意見を即時に板書やカードに生かすこと。
- ・授業の明確な意図やねらいの大切さ、教師の準備を十分に行うこと。
- ・必然性をもって学ぼうとする生徒の心の醸成。
- ・めあてをどこにおくかによって、教師の働きかけが大きく違ってくると感じた。
- ・一つの考え方にとらわれず、生徒の目線、教師のねがいを幅広く考え一番身につけさせたい能力は何かと見極めたいと感じた。
- ・造形遊びの実践は段取りや活動の振り返り共有の大切さを感じた。中学校のステンドグラス導入段階の鑑賞は丁寧な導入のあり方を教えてもらった。
- ・小～行動することで広がり感じる学び→アクティブラーニング造形遊びの視点の大切さが重なる中～多様な表現に触れ見ること話すことで具体的になっていく→生徒の作品イメージが具現化していく

②奥村高明氏のご講話・ご助言をいただいたの感想、考えたことなどから

- ・「絵を描いた。物を作った。」のではなく、「子どもが何を学んだのか」を認知させることが大切。新指導要領は教科にとらわれることなく目標が同じであるということを知ったので、総則からしっかりと読み込みたい。
- ・「どこで なにを どのように」を明確にした授業ができるようがんばりたい。
- ・私たちの園でも遊びの中で、子どもたち自身で考えを出し合い、試してみ、話し合いをして・・・とやっているの、すごく近いものを感じ、たくさん学ばせていただきました。
- ・子どもが「何」を学んでいるのか、図工に限らず意識していきたい。
全体を漠然と参観するより、その授業のよいところや課題、解決法が分かると思った。
- ・一人の子をピックアップして見取り、授業を考察する方法がとても参考になった。
- ・改訂される学習指導要領についてしっかり内容を把握することができて大変勉強になりました。
- ・子ども自身が何ができるようになったのかを、明確に自覚できるように、ということが心に残りました。
- ・‘ブラタモリ’的探求型の授業の大切さを改めて知ることができました。
- ・子どもの姿から、授業の組み立て方、評価の仕方、目指していく（何ができるようになったのか？）方向がはっきりしてきたと思います。
- ・授業において子どもにいかにかえさせるか、工夫させるか、という手立てが大切であること。
- ・冒頭の図工美術と学力の相関など、非常に興味深くおもしろかったです。
- ・造形教育の方向性と、目指す授業について具体的にイメージできた。全国大会で提示する授業のあり方を考える時間になった。
- ・新学習指導要領の重点がよくわかった。人を育てることを忘れず、図工を指導していきたい。
- ・視聴した授業分析をしていただいて、子どもの見方、指導方法のポイントがよりよく分かった。自分の考えと違った見方をするのができて勉強になりました。
- ・いつもながら明確で分かりやすいです。とても興味深かったのは図工もこの授業や題材で「自分のどんな力が育ったのか何がわかったかを自分の言葉で語れることが大切」といわれたこと。
- ・一人一人の子どもを生かせる授業を積み重ね学校が楽しい、勉強が楽しいと子どもたちが思えるようがんばりたい。
- ・特に新学習指導要領をふまえて授業。題材を考える上で「（子どもが）自分が発揮した力は何なのか」が自身でわかる、伝えられるようにという言葉が心に強く残りました。

研修会の様子



子どもたちと私たちは違う。人は一度わかってしまったら、わからないときには戻れない。子どもたちにとっては、その場にあるどれも、時には私たちの思いもよらないものもおもしろいものである。

『アートの教育学（OEC D教育革新センター）』によると、人々に、革新する創造的な力（空間認知力・心的イメージをもつ力・意見を述べる力・観察力・推論する力・振り返る力・粘り強さ・問題発見力・独力で問題解決する力・他にない方法で解決する力など）、つまり学力を高めるには美術教育がよいかという、相関はあるが因果関係は証明できないという。芸術教育に参加している生徒は学力が高く、創造的で、学習意欲が高いとは言える。それは、ホーソン効果、早期化によるものなのか。これらは、今後長い時間をかけて追跡調査の必要性がある。しかし検証方法にも限界がある。プログラムと教師による、どんな美術教育をやったかという影響が強いのではないか。芸術をやると学力が上がるのではなく、研究による教師の力量アップの影響ではないか。これについては、明確なエビデンスが必要である。

数学で育つ能力とは、たとえば計算能力、論理的思考力、推理力、応用力、既習事項活用能力、比較・検討する能力、忍耐力、数の概念、量を把握する力、物事の関係性、想像する力、総合する力、分析する力、作図能力などなど。数学と一言と言っても、山ほど勉強し、総合的な力を育てている。

一方、図工美術で育てる能力とは、たとえば想像力、表現力、感性、道筋を立てる力、協力する力、コーディネート力、コミュニケーションをとる力、見通しを持つ力、分類する力、主体性、集中力、色彩感覚、空間認知能力、探求する力、鑑賞能力、応用力、組み立てる力、見立て力、道具を使う力、共感する力、チャレンジする力、発想力、構想力、バランス力、作図力、統合する力、象徴する力、文化を生み出す力、楽しむ力、伝達する力、計画する力、選択する力、分析する力、感動する力、オリジナルを生み出そうとする力などなど。数学と同じ力もある。

数学も芸術も統合的に学力を高めているので、相関以上のことは言えない。数学の力を高めるなら、数学だけやればいい。子どもは美術で何を学んでいたかを考えると、絵か、思考方法か、明確に設定したり検証したりすることが必要である。何を学んだかを数字を含めて語ることが大事である。

図画工作や美術は他教科より楽しいと子どもたちが思っていて、そして正解や間違いがないということは、学びの取り組みや関わり方を変えるかもしれない。学校文化を変え、学びを探索的にする可能性がある。全国大会にむけて、授業のねらいを、図工や美術に置くけれども、上記のように目指してみてもどうか。

美術はやはり実物を見たり、体験したりすることが大事である。ある校長によると、全国学力調査B問題が向上した理由をこう述べていた。『最初から目的の明確な資料が用意されて答えを創り出す教科と違って、図工は何もない状況から始まる。形や色、材料などすべて正解の中から必要な物を取りだし、それを論理的に組み立てない限り、何も出来ない。自分なりに構築して、感じたことや想ったことを伝えるという力は伸びてきた。』つまり、目の前の子どもたちの動きの中に答えがあるということである。本当は厳しい図画工作・美術だが、他の教科で培った力を週2時間でも総合的に使うことで、子どもたちが自分の力を発揮できる。だから楽しいのである。

数学も美術も、学力を高めるといふことには変わりはない。しかし、世の中の美術に関する知識は、作品と作家の組み合わせを問うような、使うことができない知識である。しかし、「考える」ということが大事であり、たとえ選択肢があっても、問題から、要素をいくつか取り出し、照らし合わせ、比較し、判断し、組み立てて考えさせる問題が多くなってきている。これが求められる学力である。

学習指導要領の改訂について、今回は、解説に載っていた学習方法や指導方法が指導要領に入ってきた。『何を学ぶか』『どのように学ぶか』『どんな力を伸ばすか』が明確になり、総則の位置づけが代わって色や形、明るさなど具体的なことが書かれてある。授業であれば、子どもたちが自分の体験から、形や色・明るさの感じに気づいたか、学びの過程の中で、どのような視点で物事を捉え、どのように思考していくのかという物事をとらえる視点や考え方を学ぶ。また、教科の目標が一文になることで、教科間の連携がしやすくなる。教科は違っていても授業における共通性として、集中のさせ方やモニタリング、指名の仕方などがあ

る。学習指導要領でも、三つの柱、主体的で対話的で深い学び、カリキュラムマネジメントを共通して改訂した。

改訂のポイントの一つ目は、より資質能力がベースになることである。高等学校にも「共通事項」が入る。二つ目は、育てたい力や学びが答えになっているかどうかである。子どもたちに「美術で何を勉強した？」と尋ねると「絵を描いた」「石を削った」などしか返ってこない。授業が終わって、「何を勉強した？」と聞いたときに、「スタンドグラス」ではなく「光の通り方」などと言えればよい。

授業ビデオに対する助言

小学校

導入で、教師が活動場所を短時間で把握させており、授業テクニックが高い。ある児童が「ぼくは…なるべく木の近くに…」と考えながら話している。また、友達の意見にすぐ反応し、思ったことをすぐ話している。活動時間に入ると、歩き回った後高いところへ登り、テープを引っ張って別のテープと結ぶ活動をずっとしていた。活動が終わった後「僕はいろんな所をつないで隙間をなくしたから、2年生にうまくくぐれるかというゲームをさせてあげたい」と言っていた。2年生を招待したときも、2年生がちゃんとくぐれているか楽しみながら一緒に活動していた。やりたいことが一貫している。

また、ビデオから授業のいろいろな意図が見える。一人一人がやりたいことを明確にもち、友達の物も自分のものに取り入れながら、という授業デザインを先生が当初からしている。授業は、本質的な問い（方法的な問い・概念的な理解の問い）に向かって、それぞれの場面で伸ばしたい力を考慮しながら論理的に構造立ててつくる必要がある。今回の授業の場合、

- ①どこで…学ぶ対象を明確にする→観の木・いつもの場所
- ②どのように…学ぶ方法を明確にする→テープを材料に用いる（メディア、絵の具）
いろいろな使い方をする・連鎖的な協働性
- ③何を…学ぶねらいを明確にする→楽しめる場所をつくる・ふりかえりをする（2年生）
のように設定されている。

たんけんタイムは必要ないかと思う。相互鑑賞を、子どもたちが一生懸命制作している最中に突然制作を中断して入れる必要はあるか。考慮して取り入れてほしい。たんけんタイムと、その後の振り返りのねらいは一緒ではないか。

中学校

教師が、自分にとって好きな活動を見ただけでは、子どもの活動を見取ることにはならない。ある生徒は、教師の発言を聞き、友達の発言を生かしながら、必死に目の前の作品を鑑賞している。しかし、友達の発表を聞いているときは、まったく反応しない。苦手なのかもしれない。しかし、後で作品をたくさん提示したときには、また生き生きしている。

彼も活躍できて、周りの子も活躍できる授業を考えてみたい。例えば、最初から作品をたくさん出して、きれいだと思うところをめぐらせてみるなども考えられる。

また、教師が、授業中の生徒の発言をすぐにキーワード化しているところが、テクニックが高い。多様性や生徒に任せる部分などは、学校の実態をふまえて設定する必要がある。図工美術では、自分の感じたことや感動を言葉で十分表せないが、我々が読み取ってやる必要がある。この授業でもそれが可能か。

これからの図工・美術は、自分が何をできるようになったかを明確に自覚できる学習になる。「色の組み合わせや濃淡の効果を理解する」「奥行きが生まれるように配慮して…」など、具体的に自覚できるようにする。つくりこんで正解に落とし込む授業よりも、ともに歩みながら新しい発見ができる授業であるとよい。例えば、「講義を視聴し、ノートを取り、自宅で講義内容をノートにまとめる」ではなく「自宅で講義内容をノートにまとめ、学校でいきなりディスカッションする」というような反転授業も考えられる。本質的な問いに対して、子どもたちがより考え、より工夫する授業をすることが大切である。

第62回東北造形教育研究大会(山形大会)
第23回山形県造形教育研究大会(酒田・飽海大会)
実践発表

分科会テーマ
作品・友だち・自分と語ろう
～鑑賞活動の在り方と目指すもの～

由利本荘市立本荘北中学校 木内 衛

今回は、酒田で開催されるということで、前日のレセプションにも参加した。平成30年度の全国大会に向けてのPRを行いつつ、東北全体の盛り上がりを実感した大会となった。

1 中学校での授業を参観して

主に中学校部会の鑑賞授業を参観した。鳥獣戯画を扱った題材で、表現としても大変興味深い内容だった。
分科会テーマ

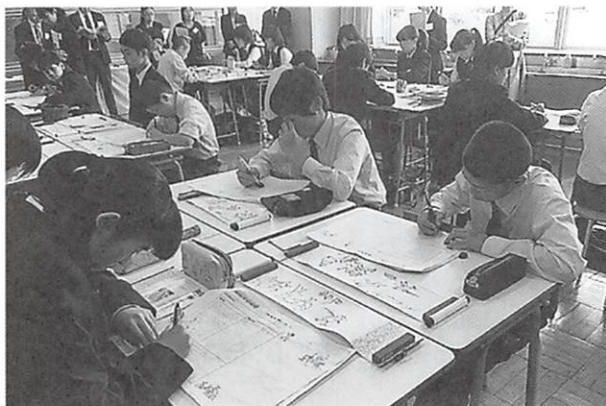
「自分の心に向き合い対話と表現で深める
鑑賞学習」

題材名(第2学年)

「古のユーモアをひもとく
～鳥獣戯画(国宝)の魅力～」

題材を通した求める生徒像

- ①単に漫画に通じるおもしろさという表面的な読み取りだけでなく、お互いの対話を通して、モチーフに込められた作者の意図など様々なことを想像したり広げたりする生徒。
- ②筆による描写を通して、本物に迫り、作品の本質をとらえようとする生徒。にじんだりかすれたり思うように表現できない中から作者の表現力を感じ取ったり、自分で試行錯誤することで作品の魅力に気づいていく生徒。
- ③自分としての感じ方や想像を最後まで大切に、自分の価値意識を持って作品と向き合う生徒。クラス全体で学習を深めながらも自分のとらえた「鳥獣戯画」という視点で作品に愛着を持ち、鑑賞を深めていく生徒。
この授業の最もおもしろいと感じた点は、絵巻物の中に自分を投影する動物を描き入れたところだった。描く材料も硯や固形の墨を準備し、本物に迫る工夫が多数なされていた。実際の鑑賞の場面では、鳥獣戯画の表現や作者の意図とともに、生徒同士で普段から知っている性格や人となりを認め合う場面もあり、緊張感の中にも和やかな雰囲気で行われた授業だった。指導者の意図的指名や考えられた授業展開なども、非常に勉強になった。



2 実践発表を通して

公開授業を参観後、分科会を経て実践発表を行った。前年度仙台で行われた全国大会の授業実践をした先生の発表の後に行い、発表後の質疑応答も行った。

実践1「風神雷神図を味わおう」

風神雷神図屏風絵(俵屋宗達)の実寸大をもとに鑑賞した実践を発表した。発問によって生徒の思考の流れを止めてしまった反省から、提示作品の厳選とその作品がもつ価値の正しいとらえ方、生徒にどんな力をつけさせたいかにもとづく発問の吟味の必要性を感じたことを内容に入れた。

実践2「福田豊四郎がこの絵に込めた思いとは

何か考え、伝え合おう」

生徒と同郷の作者の心情や意図を鑑賞することで、生徒の実態に応じた発問や授業展開ができた例として発表した。作品の価値と生徒の生活体験などの実態とが合致し、発問も思考の流れをスムーズに促すことができた実践で、その際の学習カードや生徒同士のかかわり合いの仕方などの詳細も内容に入れた。

実践3「自分を見つめる」

対話を用いた鑑賞以外で、よく実践されているであろう先輩の参考作品の鑑賞例や、発想・構想段階での鑑賞例を挙げて発表を行った。表現が中心となる題材の中で、鑑賞も効果的に取り入れることで、「造形的な見方や考え方」を使って「生きる力」に結びつく記述も生徒の振り返りやまとめの記述から感じられたことも内容に入れた。

上記の内容に加えて、鑑賞授業の在り方と目指すものという項目で、鑑賞と表現が相互に関連し合う授業展開の実践例などを挙げて発表した。特に鑑賞を行う際には、生徒の感じ取る力を高めるために、「観察」する力を重要視し、五感を使った観察の実践例も発表した。そして、作品や友だちとの対話、何より自分との対話が重要であることでまとめた。

3 全体を通して

公開授業からは、題材設定の可能性と生徒につけさせたい力に応じた授業展開の綿密さを学んだ。また、教師と生徒の信頼関係と確かな指導技術は相互に関係し合い、生徒の学びにつながることを実感した。

また、公開授業会場の作品展示内容に迫力を感じ、指導者に授業展開などを質問することができた。「15歳心の記念碑 BOXアートに挑戦!!」という題材名で、自分を表現する題材としてとても素晴らしい実践例に出会うことができた。

レセプション、分科会、実践発表の質疑応答などでは、山形県の先生方だけでなく、東北各地から意欲あふれる先生方が多く、自分の実践にも共感してくださる先生方がおり、たくさんの活力をいただいた。私自身が美術を通して人とかかわり合いを広げることができ、大変有意義な時間とすることができた。

この機会を通して、秋田県開催となる全国大会で秋田県の魅力と授業実践、何より可能性に溢れた生徒たちを見ていただきたいと強く感じた。この大会に参加した先生方に見てもらおうのが楽しみである。

第70回全国造形教育研究大会(長野大会)実践発表
分科会テーマ <“願い”がつながる>

思いを広げ、深め、 つくりだす喜びを味わう造形遊び

横手市立横手南小学校 千田 圭子

この度、全国造形教育研究大会での実践発表という貴重な機会をいただいた。昨年11月に行われた、秋田県造形教育研究大会での実践(前任校である、横手市立朝倉小学校2年生と一緒に取り組んだ造形遊びについて)を紹介する。

1 提案趣旨

全ての児童が、多様な材料や表現、友達との関わりを通して、表したいことを思い付き、思いを広げ、深め、つくりだす喜びを味わえるようにしたいと考え、新聞紙を材料に造形遊びの授業を構築した。

2 実践の概要

題材名 「しんぶんしパラダイス」で
あそぼう(2時間扱い)

ねらい

新聞紙の感触を体全体で楽しみ、その特徴などから造形的な活動を思い付き、表し方を工夫することができる。

具体的な取組

1 児童の思いをふくらませ、主体的な活動につなげるために

①題材名の工夫

基となる材料が分かり、学習活動への興味・関心が高まるような題材名を考え、示した。

②材料の確保

試行錯誤しながら活動を広げるのに十分な量の新聞紙を用意した。

③場の設定

体全体を働かせて伸び伸びと活動できるようホールを活動の場とし、ロープ等で環境を整えた。

④材料との出会いの工夫

材料との出会いを「新聞紙でのかくれんぼ」にした。体全体を働かせて新聞紙の感触を十分に味わい、新聞紙でできる表現の多様性や面白さに気付くことができるようにした。

⑤材料と用具の限定

「つなぐ」という発想に対応できるよう、セロハンテープと粘着テープを用意した。手でちぎったり、裂いたりすることで、新聞紙の特徴を感じ取ることができるよう、はさみは使わせなかった。

⑥友達との交流による課題解決

活動中に友達の様子を見に行ったり、ヒントをもらったりすることを認めた。活動が停滞している場合には、対話によりつまずきの状況を把握し、「〇〇さんがよい方法を思い付いていたよ。聞いてみたら？」などと声をかけ、友達との関わりを通して課題を解決することができるようにした。

2 思いを広げ、深めるために

①つぶやきや発言の可視化

新聞紙に触れる活動で感じたことを2年生らしい言葉で自由に語らせた。また、児童のつぶやきや発言を掲示し、活動のヒントや、互いに認め合うときのキーワードにした。

②自分の思いを紹介し合う場の設定

2時の導入時に、前時の活動を想起させ、更にできそうなことや、試してみたいことを考え、紹介し合う場を設定した。個々の思いを広げ、意欲や見通しをもって活動できるようにした。

③互いのよさを認め合う活動

終末は、全員で「しんぶんしパラダイス」を探検しながら自他の活動に改めて目を向け、互いのよさを認め合う活動を行った。

3 成果と課題(○成果 ●課題)

○材料との出会いにたっぷり時間を取り、体全体を働かせて新聞紙に触れさせたことにより、児童は実感を伴ってその特徴を理解し、新聞紙や場の特徴を生かしてダイナミックな活動を展開した。また、自分の考えを基に作品に表すという活動とは違い、思い付いたことを試し、どんどんつくりかえていくことができるという安心感から、全ての児童が時間いっぱい活動に向かい、表現する楽しさや達成感を味わっていた。

○言葉を通して友達と関わり、自然にグループになって活動する様子が見られた。それぞれが思い付いたことを出し合い、共同してつくりだす活動により、主体的に活動を発展させることができた。

○児童は、授業の始めに知らせていた「しんぶんしパラダイスたんけん」を楽しみに、最後まで意欲をもって活動することができた。

●剣やボールなど、新聞紙で自分のつくりたいものをつくり遊んでいる様子が見られた。材料からイメージしてつくったもので遊んでいるのだが、教師の意図したねらいからはずれている。児童が学習のねらいを理解して活動に取り組むことができるよう、指導の手立てや言葉掛けを更に工夫する必要がある。

●児童の活動がどんどん変化していく造形遊びの中で、活動の様子の観察と対話、写真やビデオの記録、学習シートの活用など個々の児童の学習状況を的確に把握し、指導の改善に生かしていくための見取りの工夫が大切であると感じた。

4 昨年の実践を振り返って

普段、絵を描いたり工作をする学習ではいつも活動が停滞してしまう児童が、造形遊びでは、自分のやりたいこと、すなわち願いを見つけ、最後まで生き生きと活動し、まわりの児童に認められたことで、自己肯定感をもつことができた。

また、学級みんなで1つのことを成し遂げた達成感や連帯感も味わうことができた活動だった。

造形遊びは児童の“願い”をつなげるだけでなく、児童と児童の“心”をつなげる学習であると実感している。今後も、更に研修を重ね、深めていきたい。



第70回全国造形教育研究大会(長野大会)実践発表

分科会テーマ “深い学び”につながる

学習指導要領の改訂に向けこれからの
美術教育でつくれる力の具体を考える。

～「主体的・対話的で深い学び」の可能性と
授業のユニバーサルデザイン化の実践から学ぶ～

昨年11月に行われた全国造形研究大会での発表内容を紹介します。深い学びは、主体的に学ぶ生徒の姿があつてこそ達成されるのではないかと考え、下記のテーマで発表を行った。

「やってみたい」を引き出す授業の工夫
北秋田市立森吉中学校 沼田桃子

1 提案趣旨

運動が苦手な生徒がいるように、創造したり描いたりすることに苦手意識を持つ生徒も多い。全ての生徒にとって、美術の時間が少しでも楽しく、充実したものとなるようにと、工夫して取り組んだ授業の実践を紹介する。

2 実践の概要

<ピクトグラム>

(1)魅力ある題材の設定と自分との関わり

本校は中庭のある構造で、教室の位置がわかりづらいという実態がある。入学時に迷ったという生徒の経験もふまえ、制作に取りかかった。

(2)題材との出会い

一番馴染みが深いと思われるトイレの表示を例に、様々な国のピクトグラムを比較しながら鑑賞した。正確に情報を伝えるための色と形の重要性や、単純化の必要性など、作品づくりのポイントを自分たちから気付くことができた。

(3)発想構想を高めるための話合いの充実

ピクトグラムの意味が他者に伝わるか、クイズのような感覚で楽しみながら批評しあった。仲間のアドバイスを生かし、作品がより良いものへと変容していく中で、学び合う姿が見られた。

(4)つまづきへの手立て

制作では、絵の具による着色と、色画用紙の切りぬきのどちらかを選択させた。自分に合った表現方法を決定することで、制作への意欲を持続させた。また、マークの枠の形のスケールをあらかじめ準備し、幅や長さを測る手間を軽減した。



<パッケージデザイン>

(1)魅力ある題材の設定と自分との関わり

郷土の菓子をテーマにし、ふるさとに目を向けると共に、「空港で販売するとしたら？」と、設定を設けたことで、地元以外の人に買って貰うための工夫について考えることができた。

(2)題材との出会い

デザインの世界のワクワク感に触れさせるため、たくさんの優れたパッケージを提示した。先に多様性を示しておき、生徒の興味を引き出した。

(3)発想構想を高めるための話合いの充実

ピクトグラムと同様に見合う時間を設け、各自で設定したコンセプトに合っているか、意見を伝え合った。色と形に加え、パッケージの開け方や中身の形状についても話題が広がっていった。

(4)つまづきへの手立て

クラフト用紙を使った立体的なアイディアスケッチを取り入れることで、切ったり折ったりを繰り返しながら理想の形を探っていくことができた。



3 成果と課題

本題材では、美術が身近に存在し、生活の中で生かされているのだということを感じさせたいねらいもあったが、授業後のアンケートからは、「店に行ったときに気をつけて見るようになった」という意見も多く聞かれ、授業の学びが生徒の中に残っていることを実感することができた。また、「美術の授業は楽しく充実している」という項目にはほぼ100%近い生徒が「すごくそう思う・そう思う」と答えた。何もないところから発想し、形にし、新たな価値を生みだしていくことが美術の楽しさであり、難しさでもある。面白そう！やってみたい！を引き出すことができれば、より良い作品をつくりたいという生徒の気持ちも高まっていくと考える。最終的な作品の完成度だけにとらわれたり、生徒と題材との結びつきが弱かったりした時は、意欲を十分に高めることができず、反省点も多かった。

生徒の深い学びは、題材を通し、自分と仲間、地域など、たくさんのものに関わり、思いを巡らせながら試行錯誤していく中で培っていくものであり、その手助けをしていくのが私たち教師の役割であると思う。美術教育を通して、個性や自分の思いを大切にすることを育てていきたい。

平成29年度 秋田県造形教育研究会役員

| | | | | |
|-----|---------------------|---------------------|---------------------|---------|
| 会 長 | 山瀬小学校 校長 永 井 孝 久 | | 顧 問 | 佐々木 彰 子 |
| 副会長 | 花輪第二中学校 校長 木 村 伸 | 太平中学校 校長 鎌 田 悟 | 神代中学校 校長 小 林 高太郎 | |
| 監 事 | 平沢小学校 教頭 三 浦 直 樹 | 四ツ小屋小学校 教諭 小 野 哲 | | |

| 地 区 | 会 長 | 事務局 | 研究部 |
|------------|----------------------|-------------------------|----------------------|
| 鹿 角 | 花輪第二中学校 校長 木 村 伸 | 花輪小学校 教諭 田 中 繁 子 | 花輪第一中学校 教諭 関 清 志 |
| 大 館 北 秋 | 山瀬小学校 校長 永 井 孝 久 | 大館市立第一中学校 教諭 コリガン 麻衣 | 鷹巣中学校 教諭 工 藤 明 美 |
| 能 代 山 本 | 東雲中学校 校長 佐 藤 克 | 東雲中学校 教諭 渡 部 悦 子 | 能代第一中学校 教諭 田 森 舞 |
| 男 鹿 | 美里小学校 校長 三 浦 真 澄 | 船川第一小学校 教諭 上 田 環 | 男鹿東中学校 教諭 中 川 努 |
| 潟 上 南 秋 | 天王小学校 教頭 合 田 マキ子 | 天王南中学校 教諭 都 留 賀津人 | 天王南中学校 教諭 都 留 賀津人 |
| 秋田市 | 太平中学校 校長 鎌 田 悟 | 大住小学校 教諭 菊 地 有希子 | 城東中学校 教諭 松 田 清 悦 |
| 本 荘 由 利 | 象潟小学校 校長 菊 地 新 吾 | 本荘北中学校 教諭 木 内 衛 | 象潟小学校 教諭 関 口 琢 也 |
| 大 曲 仙 北 | 神代中学校 校長 小 林 高太郎 | 西仙北中学校 教諭 田 中 真二郎 | 美郷中学校 教諭 菅 原 久 実 |
| 横 手 | 横手北中学校 教諭 佐 藤 稔 | 横手北中学校 教諭 高 橋 輝 樹 | 平鹿中学校 教諭 柴 田 緩 子 |
| 湯 沢 雄 勝 | 湯沢北中学校 教頭 加 藤 久 夫 | 羽後明成小学校 教諭 三 浦 秀 巳 | 湯沢南中学校 教諭 仙 道 真理子 |

| | | |
|------|------------------------------|--------------------------------|
| 幹事長 | 本荘北中学校 教諭 木 内 衛 | |
| 研究部長 | 雄和中学校 教諭 菊 地 篤 | |
| 副幹事長 | 土崎中学校 教諭 鎌 田 政 美 | 大館市立東中学校 教諭 佐々木 亜希子 |
| 幹 事 | 御所野小学校 教諭 松 田 由紀子 (会計) | 御野場中学校 教諭 齋 藤 未 樹 (造形秋田) |

秋田県造形教育研究会事務局

〒015-0014 由利本荘市石脇字山ノ神11-304

TEL 0184-22-0321

FAX 0184-23-2778

由利本荘市立本荘北中学校

木内 衛

